

2024年12月の振り返り & 2025年相場見通し

YMfg | ワイエムアセットマネジメント

商号等 ワイエムアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第44号
加入協会 一般社団法人投資信託協会

- 本資料は、情報提供を目的としてワイエムアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を推奨・勧誘するものではありません。
- 本資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 本資料に掲載されている当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 本資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。

2024年12月の振り返り

日米の金融政策に焦点

市場	変動要因 等
債券（金利）	<u>米国債券は下落（金利は上昇）</u> 12月FOMC（米連邦公開市場委員会）にて、2025年利下げ見通しが年2回に下方修正され、今後の利下げペースの鈍化が意識されたことを受け、米国の長期金利は上昇しました。 <u>国内債券は下落（金利は上昇）</u> 日本の長期金利は、日銀が追加利上げを見送りましたが、米国の長期金利に連れて上昇しました。
株式	<u>米国株式市場は下落</u> 米国の利下げ期待が後退したことなどを受けて米国の長期金利が上昇したことが重荷となり、月間では下落しました。 <u>国内株式市場は上昇</u> 日銀の追加利上げが見送られ、円安が進行したことが好感され、上昇しました。
リート	<u>海外リートは下落</u> 海外の長期金利が上昇したことが嫌気され、下落しました。 <u>国内リートは下落</u> 米国の長期金利上昇に連れて国内の長期金利も上昇したことから、下落しました。
為替	<u>為替相場は円安ドル高で推移</u> 米国の長期金利が上昇する一方、日銀の追加利上げ観測が後退したことから、日米の金利差拡大が意識され、円安ドル高方向に推移しました。

2025年相場見通しのポイント

◎メインシナリオ

米国新政権の政策効果が見通せるまで、**金融政策の方向性は不透明な状況が続き、相場の変動が大きくなる**可能性があります。ただし、政策の効果が徐々に見えてくるにつれ、**過度な楽観や悲観が落ち着き、市場は安定に向かう**と予想します。

【根拠】

- ①**米国第一主義の方針**：新政権は、特に関税を含む対外交渉で強硬な姿勢を見せる可能性があります。
- ②**景気とインフレの不透明感**：**景気やインフレの不確実性**が高まり、金融政策の方向性が見えにくい状況です。
- ③**インフレ対策の両面性**：新政権は、**インフレにプラスとなる政策とマイナスとなる政策**の両方を打ち出している点が注目です。
- ④**グローバル経済への波及効果**：新政権の政策全体を見れば、米国経済の強化を目指しており、それがグローバル経済にも好影響を与える可能性があります。
- ⑤**AI技術の拡大**：**AI技術が経済全体与える効果はこれから本格化すると期待され、企業の利益成長を支える**可能性があります。

◎リスクシナリオ

- リスクシナリオ（Ⅰ）** 米国新政権の政策によってインフレが再び加速し、金融政策が利上げへと転換する可能性があります。
- リスクシナリオ（Ⅱ）** 米国新政権が関税政策を強化することで貿易取引が縮小し、グローバル景気が悪化。市場は調整局面に入り、投資家のリスク回避姿勢が強まる恐れがあります。

◎その他相場に影響を与える注目すべき事項

・日本の参議院選挙（2025年7月）

もし与党が敗北した場合、政局の混迷が深まり、日本株への海外投資家の関心が一段と低下する可能性があります。

・財政リスク

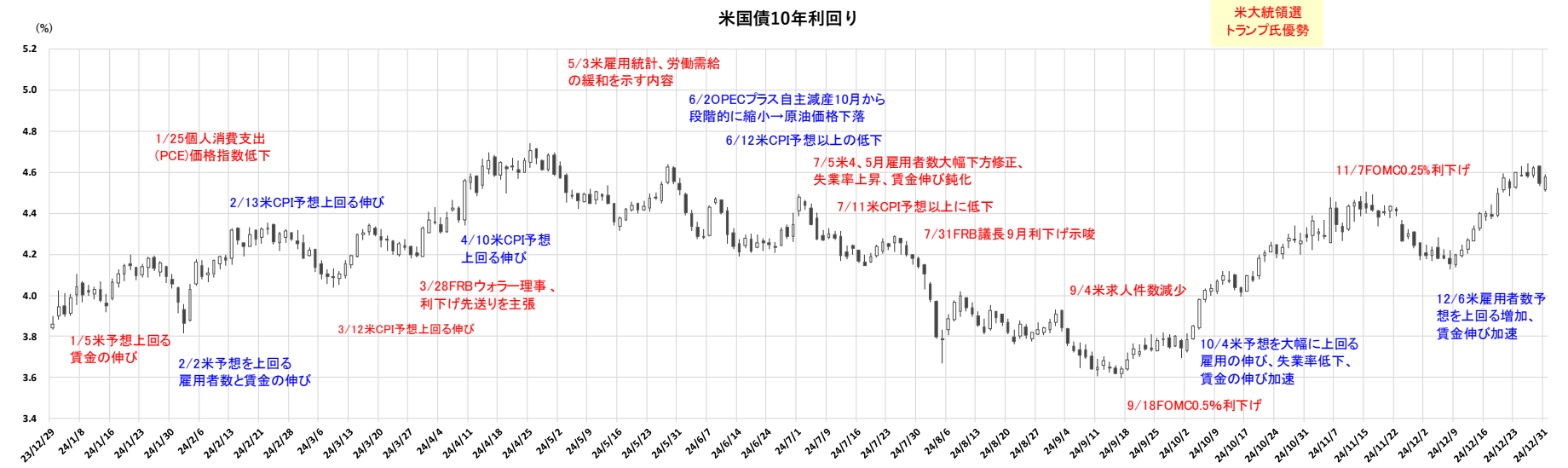
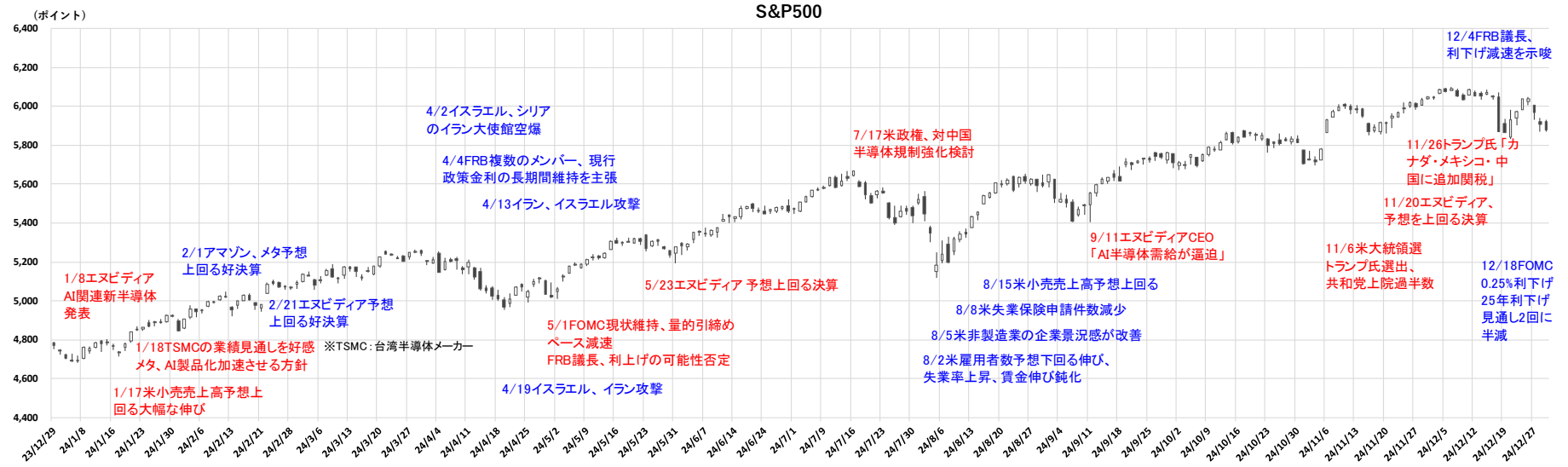
米国以外の国々でも、ドイツやフランスなどの欧州圏で極右勢力の台頭により**政局が不安定化し、財政拡大への懸念が高まる**恐れがあります。

◎投資戦略

市場に一方方向の明確なトレンドが生じにくい状況が予想されるため、資産を分散させたり、投資のタイミングを分ける「**分散投資**」が効果的な1年になる可能性があります。

年間相場変動要因

(2023/12/29~2024/12/31)

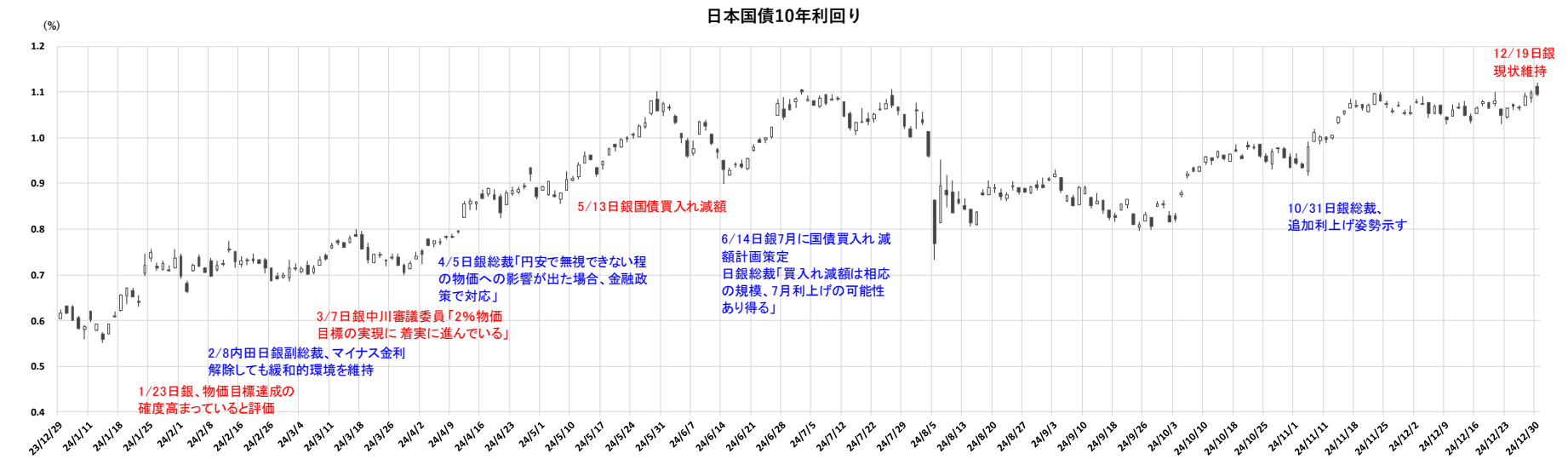
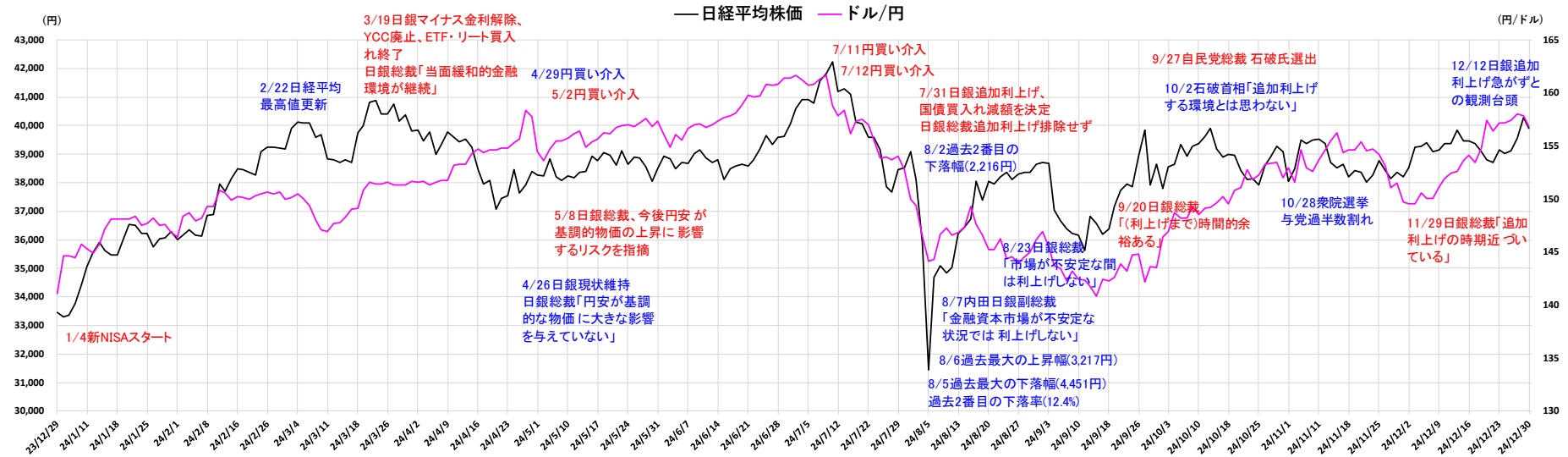


（出所）LSEGよりワイエムアセットマネジメント作成

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

年間相場変動要因

(2023/12/29～2024/12/30)



(出所) LSEGよりワイエムアセットマネジメント作成

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。